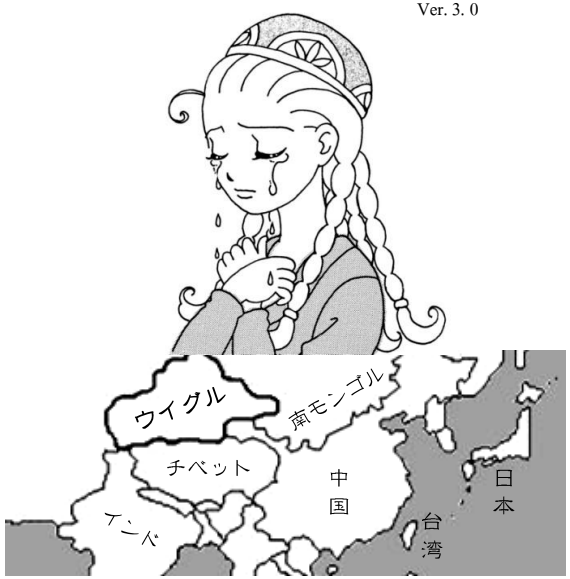
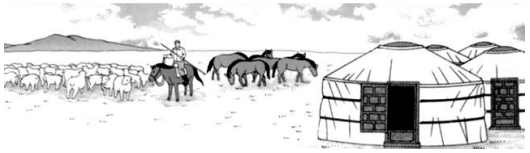
沙漠に落ちた涙

～　ウイグルのこと、知っていますか？　～

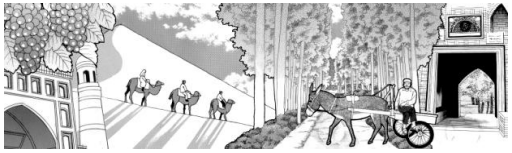
Ver. 3. 0





ユーラシアの地図を広げてみよう。”**テュルク**”と総称されるトルコ系の諸民族が中央アジアを中心にシベリアから地中海東部のアナトリア半島にかけて存在している。彼らの祖先は元もとモンゴル草原の北方に住んでいた遊牧民である。テュルク諸族は古代から近世にかけ、その馬術を活かした軍事力で東は中国から西はヨーロッパ、南はインドに至るまで勢力を伸ばし、各地で自分たちの国家を樹立した。

中国の西のはずれに住むウイグル人たちもテュルク系の民族である。彼らの祖先の一つ**トクズオグズ**族は８～９世紀にモンゴル高原を中心に大帝国を築いた。しかし戦争に敗れて滅び、彼らの残党が今の地域に**天山ウイグル王国**を建てた。以後、この地域一帯は住民のトルコ化が進み、”**東トルキスタン**”と呼ばれるようになった。東トルキスタンは天山山脈を境に、北部の草原地帯と、南部の砂漠地帯に大別される。そして南部の**タクラマカン沙漠**の周縁には古代から**オアシス国家**が散在し、インド＝ヨーロッパ語族のイラン系住民が農耕と交易を営んでいた。つまり、彼らイラン系のオアシス定住民も**現代ウイグル人**の祖先である。この地域のオアシス間を結ぶ交易路は”**シルクロード**”（絹の道）と呼ばれる。



東トルキスタン共和国（1944年/左）と**東トルキスタン・イスラム共和国**（1933年/右）の旗

ウイグル人たちは時に独立を保ち、時にモンゴルや中国に支配されながらも、オアシスごとの自治をずっと維持して来た。しかし”**新疆**（しんきょう）”とこの地を呼ぶ中国の清王朝は、国内の諸反乱に手を焼き、また隣国の干渉を恐れたため、**1882年**にこの地へ本土並みの行政制度を導入して直接的支配に改めた。以来、漢民族（中国人）が大量に流入し、現代の悲劇につながる。20世紀に入って近代的民族主義に目覚めたウイグル人たちはこの東トルキスタンの地に２度に渡って自分たちの共和国を打ち立てた。

ウイグル人はかつて仏教やマニ教を信仰していたが、中世の時代にイスラムを信仰するようになった。ウイグル語は文法的に日本語と近い言語である。文字は、現代ではアラビア文字を改良したものを使う。

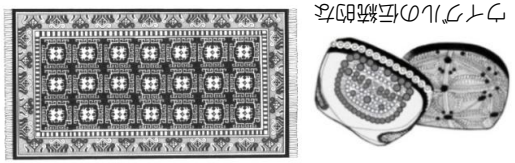
ئۇيغۇر تىلى | ئۇيغۇرچە يازما تىل

ウイグルの伝統音楽には”**ムカム**”と呼ばれる楽曲の”**醫法の体系**”が存在する。地方ごとに様々なムカムがあり、13項目から成る”**12ムカム**”は特に有名である。伴奏する楽器としてタンブル、ドゥタール、ラワップ、ダップなどが使われる。ウイグルのムカムは2005年、日本の歌舞伎と共にユネスコの無形文化遺産に登録された。

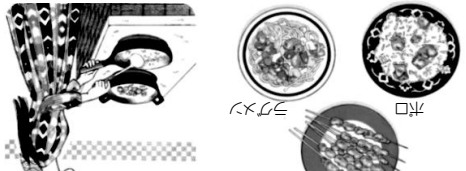
ウイグルでは踊り

もちろんで、プロの踊子による伝統舞踊の披露が観光の目玉となっている。祭りや結婚式、パーティなどでは一般の人も皆で踊る習慣がある。やはり地方によって踊りの種類も様々である。

南の都市ホータンでは、絨毯を約２千年も前から織り続けてきた。古代のウロスイチ（楼蘭）王国では、絨毯を税として物納していた。近代の清王朝下でも、ホータンの絨毯は大量に ソ連へ輸出されていた。

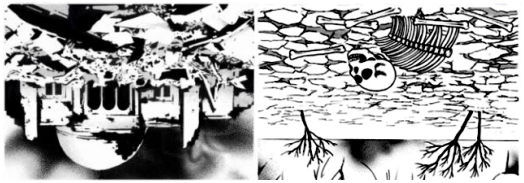


ウイグルの伝統的な帽子に**ドゥパ**と呼ばれるものがある。男女別や地方によって色や柄が違う。男性は日常よく ドゥパを冠るが、女性は、普段はスカーフやウエーブを着用することが多い。女性はまた、**アトラス**織のと呼ばれる色鮮やかな柄のワンピースをよく着る。



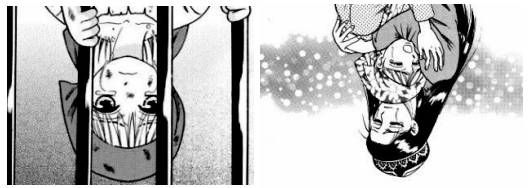
ウイグルでは羊肉を使った料理が多く、鉄串焼きの**カブ**や麺料理の**ラグメン**、米料理の**ポロ**などが有名である。ウイグルでもナンが食されるが、まんまるで硬い。調理に際しては**ハラール**と呼ばれるイスラム法に則った一定の作法が要求される。

魅力的な文化を持つウイグル人であるが、1949年に東トルキスタン共和国が中国によって再び侵略されてから存続の危機を迎えている。東部の**ロプノール**地区では、これまでに計46回に及ぶ中国の核実験が行なわれ、148万人が被爆し、その内19万人が死亡したとされる。ウイグル語が学校教育から排除され、中国語を強要されている。南西の街**カシュガル**では、古来よりの続く街並みが破壊されている。



無実の罪で**ポルの人**が逮捕・監禁され、拷問を受け、殺されている。特に知識人が標的になる。東京大学大学院に留学していた**トフティ・トゥニアズ**さんは、1998年に故郷に一時帰国していた際、無実の罪で逮捕され、刑期の11年が過ぎたさらも身柄は自由にならない。

中国は石油など東トルキスタンの豊富な地下資源を奪いつくすため、民族抹殺政策を行なっている。まず妊婦に対して中絶を強いて人口を抑制している。次いで、若者たちを中国内地へ強制的に移送し、男性には過酷な労働を、女性には売春や中国人男性との結婚を強要している。



2009年７月に**ウルムチ**で発生した平和デモは、そうしてこの国に連れて来られたウイグル人労働者たちが、前月に広東省で惨殺された事件への抗議の表れであった。しかし、武力警察の一斉射撃によって直ちに鎮圧されたばかりか、さらにデモとは関係のない一般のウイグル住民までが殺害され惨劇となった。これまでの対立関係から殺害には一般の中国人までが加わるようになり、３日間で約５千人のウイグル人が虐殺され、１万人以上が警察や軍に連行されたまま行方不明となっている。

東トルキスタンの平和と自由を願う、海外の亡命ウイグル人によって設立された多くの組織は、2004年に”**世界ウイグル会議**”に統合された。世界ウイグル会議は、平和的手段によるウイグル人の民族自決権の獲得を主張し、ウイグル人に対する中国の人権弾圧について国際社会に広く訴える活動を行っている。世界各国に20以上の傘下組織があり、2008年には”**日本ウイグル協会**”が設立された。

現在、世界ウイグル会議の議長（２代目）を**ラビア・カーディル**が務める。彼女は元もと実業家として成功した著名人であったが、ウイグル人の権利拡大を主張したため、1999年に中国に逮捕・投獄された。2005年に米国へ亡命して以来、日夜ウイグルのために精力的に活動している。しかし中国に残してきた子供たちは不当に逮捕され、監視下に置かれるなど中国の人質となっている。2006年にノーベル平和賞候補に選ばれ、”**ウイグルの母**”とも呼ばれている。

ウイグルの現状をもっとよく知るためのPCサイト
http://www.uyghurcongress.org/Jp/Home.asp
http://uyghur-j.org/main.html

絵：ORISE　　作：山つゝじ